

■東北地方太平洋沖地震 仙台航空基地（3分47秒）-映像解説-

<映像の概要>

映像は、建物の2階から空港に押し寄せる津波をとらえたものです。

津波が空港内の車、ヘリコプター、飛行機をがれきとともに押し流し、やがて家屋や船が流されてくる様子がわかります。基地の人たちが通信を続ける、緊迫した空気が伝わってきます。

<災害の概要>

- 平成23年（2011年）3月11日（金）、午後2時46分、三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震が起きました。揺れの強さを示す「震度」はもっとも強かったところで7、地震の大きさを示す「マグニチュード」は9.0となりました。

これは、これまでに日本国内で観測された中で最大です。

この地震は、大津波や余震をともない、東北地方から関東地方にかけて、大規模で深刻な災害をもたらしました。

多くの人が犠牲になり、家や仕事を失い、また漁場や農地が打撃を受けました。

この地震により亡くなった人、行方が分からなくなった人は19,578人（消防庁公式サイト「被害報」より、平成23年11月30日現在）とされていますが、その9割以上は津波によるものです。

津波は北海道から沖縄まで全国の海岸で観測されました。特に岩手県、宮城県、福島県の沿岸部では多くの人が津波にのまれ、建物が流されるというたいへんな被害をもたらしました。

また、福島県双葉郡にある東京電力福島第一原子力発電所が、この地震および津波により大きな被害を受けました。

これにより重大な原子力事故が起き、放射性物質が大気中に放出されたため、被災地をはじめ、広い地域にわたって生活に影響をもたらしています。

さらに、関東・東北地方で地面の液状化現象が発生し、千葉県、東京都といった東京湾沿岸を中心に大きな被害がありました。

いっぽうで防災や、被害を受けたあとの対策の大切さがあらためて見直されました。また、平成7年（1995年）の阪神大震災をきっかけに広まった「災害ボランティア」の活躍や、それを支援する動きが見られました。

- 宮城県岩沼市では、沿岸部に大きな津波が押し寄せたため、182の方が亡くなり、2,313の建物が全壊・半壊するなど、いちじるしい被害がありました（平成23年11月11日現在）。

撮影された第二管区海上保安本部の仙台航空基地も津波により浸水し、数ヶ月にわたり使用ができなくなりました。

<映像の流れ>

映像は以下の流れのとおりです。

見出し	内容
航空基地内に到達した津波の様子 (00:00 ~00:28 付近)	津波ががれきとともに、航空基地の敷地内に押し寄せてくる様子を見ることができます。
車や飛行機が流される様子 (00:28 ~02:04 付近)	敷地内にとめられていた自動車、ヘリコプター、小型の飛行機が次々と流されていく様子を見ることができます。
避難の相談 (02:05 ~03:47 付近)	津波が波打ちながら押し寄せ、こわれた建物も押し流されています。 水位が上がり続け、基地の職員も、業務を中断して避難を開始する緊迫した空気が伝わってきます。

撮影日時：平成23年（2011年）3月11日 午後4時ごろ

撮影場所：仙台航空基地

撮影者：仙台航空基地

提供：海上保安庁